

講義名	ヨーロッパのことばと文化			授業形態	
担当教員	田村 弘行	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

ヨーロッパの人々が話すことばについて、その特徴を学び、ヨーロッパの人と円滑なコミュニケーションをとることができる能力を育みます。さらにヨーロッパ圏を形成する社会の成り立ちや文化、人々の生活について、時に日本との関わりや日本の社会・文化への影響を、歴史的な経緯を踏まえながら総合的に学びます。そうすることで、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材の育成を目指します。

到達目標

- ・ヨーロッパのいくつかの国のことばの基本的な特徴がわかるようになる。
- ・ヨーロッパのいくつかの国の文化の特徴を知り、国際的な感覚を持つようになる。

提出課題

毎回授業の最後に小テスト・小レポートを課します。気づいたこと、学んだこと、意見・感想などを提出してもらいます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題を与えた授業後、1週間後に質問などへの回答および解説をします。

評価の基準

上記の提出物と出席、授業中の参加・取り組みなどを平常点として考慮し、毎回10点満点で15回、合計150点満点の点数合計を100点換算して評価を出します。

履修にあたっての注意・助言他

- ・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、シラバスの修正がある場合があります。
- ・評価の基準に書いたように、毎回が点数化されます。欠席が多ければ単位取得はかなり難しくなるので、できる限り欠席しないように注意して下さい。毎回10点満点で15回、合計150点満点の点数合計を100点換算して評価を出します。合格は80パーセント取得ですから、例えば、欠席4回すると持ち点110点で90点を取得する必要があるわけです。気を付けて下さい。
- ・2、3行しか書かないようないい加減な提出物、暗り書きの提出物は評価が低いのは当然です。提出物は、自分が学んだということをアピールする物であり、読み手へ敬意を忘れないようにしましょう。
- ・TV番組、映画、新聞、ネットなどで、ヨーロッパに関する情報について常にアンテナをはっておいでいただきたい。本学のドイツ語、フランス語なども受講することがぞましい。またNHKの語学講座を視聴することもお勧めしたい。

教科書

・使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

その他

その都度、授業時あるいはRyuka Portalの講義連絡などでプリント配布します。

授業計画

- 1 ヨーロッパのことばと文化概観
- 2 キリシャ語、ラテン語について
- 3 フランス語の特徴1
- 4 フランス語の特徴2
- 5 パリの歴史と都市発展
- 6 フランスの芸術文化と国王、皇帝
- 7 文化国家フランス
- 8 フランスの歌について
- 9 香のフランス語
- 10 ドイツ語について
- 11 ドイツの食文化について
- 12 イタリア語について
- 13 イタリアの食文化について
- 14 ローマについて
- 15 フィレツェについて

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	○ カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・授業で次回学習の予習をするので、そのテーマに関する情報を収集し予習しておくこと。・・・2時間程度
- ・授業後に学んだ内容に関連する書籍、ネット情報などを収集し発展学習に努めること。・・・2時間程度

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

当科目は、グローバル展開科目として、海外の社会や文化をより深く学ぶための科目です。到達目標に記してあるように、ヨーロッパのいくつかの国のことばの基本的な特徴を知ることで、「(ヨーロッパの人と円滑なコミュニケーションをとることができる)能力を育み、ヨーロッパのいくつかの国の文化の特徴を知ることで、日本との違いを知り、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

RyukaPortalのレポート提出機能を利用し、小レポートを提出してもらうことがあります。

実務経験の有無及び活用

備考
